

調査

都内全通所介護事業所へのアンケート調査結果について

2010年12月6日

日本共産党東京都議会議員団

【調査方法】 都内の全通所介護事業所1952施設に、「通所事業所で実施している宿泊事業に関するアンケート」を郵送。
回答をFAXで返送してもらいました。

【調査期間】 11月19日～12月1日

【調査結果】

(1)都内1952施設中547施設が回答、37施設が宿泊事業を実施

アンケート用紙が届いた当日・翌日から、続々と回答がよせられ、つよい関心が示されました。

都内の通所介護事業所1952ヶ所のうち、547施設から回答がよせられました。全施設に対する回答率は28%となります。

回答者は、代表取締役、施設長、所長、管理責任者、管理者、生活相談員、ケアマネージャー等です。

回答をよせた施設の大半は、株式会社、有限会社、NPO法人などの民間施設です。大手グループの施設からも回答がありました。

宿泊事業を「実施している」	37施設（回答事業所中7%）
「実施していない」	510施設

(2)都内で140ヶ所以上の通所介護事業所で宿泊を実施していることが明らかに

アンケートに「実施している」と回答した37ヶ所のほか、宿泊事業の実施をかかげてチェーン展開などを行っている事業所、約107ヶ所がインターネット等により確認できます。

これらを総合すれば、都内で140ヶ所以上の通所介護事業所で宿泊事業を実施していることが、明らかになりました。

(3) 最高連泊の人の期間は2年(2施設)におよんでいる

「回答日の時点で最高連泊の人の期間」を質問しましたが、「2年」と回答した事業所が2ヶ所ありました。

回答の内訳は、つぎのとおりです。

3ヶ月以上連泊している利用者がある通所介護事業所が、12ヶ所におよんでいます。

1日	2施設	30日・1ヶ月	7施設	7ヶ月	1施設
4日	2施設	2ヶ月	1施設	8ヶ月	1施設
5日	1施設	3ヶ月	3施設	10ヶ月	1施設
7日	1施設	4ヶ月	1施設	1年	1施設
11日	1施設	5ヶ月	3施設	2年	2施設
25日	1施設	6ヶ月	1施設		

(4) 「連泊制限をしている」は実施施設の3分の1(12施設)にとどまっている

「連泊制限源をしている」事業所は12施設にとどまり、多くの事業所は「連泊制限なし」です。

連泊制限をしている事業所の「連泊の上限」は、つぎのとおりです。

1泊以内	2施設	3泊以内	2施設	29～30泊以内	1施設
1～2泊以内	2施設	4泊以内	1施設	1ヶ月以内	1施設
2泊以内	1施設	原則5日以内	1施設		
日曜日がかかるものはだめ			1施設		

上限「4泊以内」としている施設でも、「最高連泊の人の期間」は1ヶ月という回答もありました。

連泊制限「なし」でも、臨時の場合のみの対応なので、毎日宿泊を実施しているのではないと回答した施設もありました。

(5) 1泊の宿泊料は、800円から1万円と大きな差がある

1泊の宿泊料(通所利用料、食費等を除く)の内訳、および最高連泊日数との関係は、つぎのとおりです。

1泊の宿泊料が安いほど、連泊日数が長い傾向がみられます。

宿泊料	施設数	最高連泊日数
800円	10施設	25日・1施設、1ヶ月・3施設 2ヶ月・1施設、3ヶ月・2施設 5ヶ月・1施設、10ヶ月・1施設 2年・1施設
980円	2施設	4ヶ月・1施設、8ヶ月・1施設
1000円	4施設	1ヶ月・3施設、6ヶ月・1施設
1000円～	1施設	3ヶ月
要介護1・2 1000円 要介護3～5 2000円	1施設	5日
1100円	1施設	5ヶ月
1500円	1施設	30日5ヶ月・1施設、5ヶ月・1施設
2000円	2施設	
4000円	1施設	
4000～9500円	1施設	7ヶ月
4500円	1施設	
5000円 (通所利用料、食費込)	1施設	11日・1施設
7000円	2施設	
8400円(2食込)	1施設	4日
平均9720円	1施設	1年2ヶ月
10000円	4施設	1日・1施設、7日・1施設

(6)多くの施設の1日あたり宿泊利用者数は、2～5人でいど

「2010年10月の1日あたり平均宿泊利用者数」は、多くの施設が2～5人でいどです。4施設は0人と回答しています。

「1日あたり平均宿泊利用者数」が最も多かったのは、18人(1施設・宿泊の定員数19人)でした。

0人	6施設	2.9人	1施設	5人	5施設
0.8人	1施設	3人	2施設	6人	1施設
1.7人	1施設	3～4人	2施設	18人	1施設
2人	3施設	3.5人	1施設	6ヶ月に1人	1施設
2～3人	1施設	4人	3施設		

宿泊の定員数、および通所事業の定員数の内訳は、つぎのとおりです。
 宿泊の定員数も、多くの施設が2～5人でいどです。

宿泊の定員数		通所事業の定員数
2人	8施設	5人・1施設、6人・1施設、10人・5施設、15人・1施設
3人	2施設	10人・1施設、20人・1施設
4人	1施設	10人・1施設
5人	18施設	10人・17施設
6人	1施設	10人・1施設
7人	1施設	10人・1施設
8人	1施設	27人・1施設
19人	1施設	10人・1施設

(7) 245事業所から、多数の意見が多数よせられた

「通所介護事業所が実施する宿泊事業について、ご意見等があればご記入ください」の自由記入欄に、245ヶ所の施設（都内全通所介護事業所の13%）から、賛否をふくめ、さまざまな意見がよせられました。

内訳は、宿泊を「実施している」事業所22施設、「実施していない」事業所223施設となっています。

おもな意見はつぎのとおりです（分類分けは日本共産党都議団の判断で行いました）。

【宿泊を「実施している」事業所の意見】22件

実施している事業所から、率直な意見や要望がよせられました。

- * 介護疲れの家族にとって、手軽ですぐ対応できるところがもっと増えていくと、よりよい介護の手助けができるように思う。（管理者）
- * 立派な社会のインフラです。胸をはって商売できるようになりたい。（職員）
- * 需要は相当ある。特養も待機があるのはもちろん、国が進めてきたユニット式は金額が高すぎて入れない。（相談員）
- * 特養などの待機の利用者のみ連泊している。（職員）
- * 通所サービスは居宅が原点。冠婚葬祭、家族の病気等に対してのお泊まり利用はありえるが、安易な宿泊サービスは介護事業を破たんさせると思う。（職員）
- * 夜勤者1人のため、医療的問題があった場合、困る。（管理者）
- * 通所事業所が宿泊するのは、なじみの場で泊まれる利用者にとっては、とてもよいことだと思う。しかし、夜間のサービスの質に対してはとても不安です。（所長）
- * 介護者の負担軽減を考慮すれば、よい事業だと思う。ただし、事故等の危険性も検討すべきだと思う。（管理者）
- * 利用者からの要望があるので、実施にふみきった。経営的には成り立たないが、認知症の方なので、家族の負担を考えると実施せざるをえない。（管理者）
- * 宿泊事業を自主事業か、介護保険事業か、事業所が選択できるようにしてほしい。（管理者）
- * 自主事業を介護保険に組み込もうとする動きには反対。宿泊にかぎらず、自主事業は介護保険にはない融通の宝庫だから。（取締役）

【宿泊を「実施していない」事業所の意見】 2 2 3 件

安全確保や職員体制など、宿泊事業への疑問や心配の声が、最も多く寄せられました
[8 5 件]

- * スタッフの確保、安全性については、特に心配がある。(代表取締役)
- * 日中のサービスの低下も起きえると感じる。(管理責任者)
- * 通所介護事業所はもともと宿泊を想定したつくりになっていない。宿泊事業を実施した場合、劣悪な環境となる可能性がある。夜勤などの人員配置も難しく、利益をあげるためには、かなり無理なことを行うことも考えられる。(課長)
- * 利用しやすいのは大きなメリットだと思うが、行き届いたケアができるか疑問。
(センター長)
- * 劣悪な環境で宿泊事業をすることは問題。「そんな所でもあてにしたい」気持ち・願い。安給料で働きつづける方々の気持ちをふまえた解決策提案をお願いしたい。
(法人代表)
- * 通所施設で宿泊を始めてしまうと、ますます職員の定着が悪くなるような気がする。
(主任生活相談員)
- * 日々の通所介護事業をぎりぎりの職員でまわしていること、宿泊のスペースの確保が難しいことなど、とても「できる」という状況にない。どうすれば「できる」のか見当がつかない。(管理者)

宿泊付きデイサービスに反対の立場を表明した意見 [1 0 件]

- * 宿泊事業を行えば、職員の仕事はますますハードになる。反対です。(施設長)
- * 通所介護に施設と同じことをさせないでほしい。(代表取締役)
- * 人道上やむを得ざる緊急避難的な場合をのぞき、行うべきではない。(経営企画担当)

十分な検討や議論を求める意見 [1 2 件]

- * 職員の確保・利用者の安全性の確保ができるか、検討が必要。(施設長)
- * 条件整備をきちんとしたうえでないと、リスクの高い事業になるかと思う。ショートステイ不足の解決をもっと検討しなくてはいけない。(管理者)
- * 他の介護保険事業との関係等、十分な議論が必要。(センター長)

条件整備への支援、介護報酬などを求める意見 [1 1 件]

- * 宿泊にともなうリスクなどを考えると、しっかりした基盤整備が必要。そのためには財源が必要。(施設長)
- * 施設の構造や人員の手配、それに見合った賃金、安全性の問題をとりくめるほどの余裕がない。開設、工事、安全確保のためのお金が必要。(職員)
- * 職員の確保、とくに看護師の確保があった方がいい。(管理者)

基準の整備などを求める意見 [17件]

- * 安易に宿泊事業が進むと、いつか「たまゆら」のような大惨事が起こるのではないかと心配している。ある程度の基準、規制は必要と思う。(施設長)
- * 一定のルールが必要ではないか。状況を把握し、改善できるような仕組みも必要となるのではないか。安易な実施には問題を感じる。(職員)
- * 現在は規制がなく、一部には質が担保されているとは言い難いケースもある。
(施設長)
- * ケアマネージャーとして無認可の宿泊を利用しているが、感染がでてしまい、便利というだけでは利用者を守れないと確信している。しっかりした基準を期待している。(管理者)

宿泊事業を評価する意見、実施に前向きな意見 [30件]

- * 利用者側にとれば、慣れ親しんだ通所介護で宿泊できれば、本人、家族ともに安心かと思う。(センター長)
- * 認知症が進むと家族の介護負担がふえ、ここに泊まれたらと何度も言われ、ニーズにこたえられず切ない思いでいっぱいです。早く「お泊まりデイ」が始まればと願っている。(相談員)
- * 今後必要とされるサービスであり、制度的な保障があるとよいと思う。(生活相談員)
- * 安全面を十分確保したうえで、週末に(家族が旅行で出かける時)など、週1~2日の実施には賛成する。(職員)
- * 自宅に帰りたくないという独居の方など、「このまま泊めたあげたい」という心境に、毎日かられている。(代表)
- * 一泊でもいいから見てくれればありがたい、という家族の要望は高い。(相談員)

小規模多機能施設やショートステイなどの充実を求める意見 [15件]

- * 通所介護事業所で宿泊事業を実施するより、小規模多機能事業所の拡充、利用しやすくするなどの方が現実的ではないか。(責任者)
- * 小規模多機能ホームやショートステイの充実に予算を使ってほしい。(センター長)
- * 入所施設やショートステイが不足していることが原因のひとつだから、そこを改善することが必要だと思う。(管理者)
- * 特養ホームの増床、ショートステイ事業のハード・ソフトの整備が大前提。(施設長)
- * 現存する宿泊サービス(ショートステイ、グループホーム)等がもっと充実するようにすること、24時間の訪問介護・看護を整える方が先ではないか。(相談員)

自主事業として実施されている宿泊事業への不安の声 [14件]

- * 必要な時に利用できて料金も安いので、利用される方は助かっている。ただ利用された方から、「同じ部屋に男女が一緒に寝るので驚いた」という声も聞かれる。施設の整備や尊厳に配慮したサービス提供が望まれる。(管理者)
- * ケアマネもしているが、デイサービスでの宿泊については、「夜間スタッフがいない時がある」「ひと間にふとんをしき、ザコ寝の状態」などの声があがっている。小規模な通所介護事業所では、夜間の人件費、安全面でのリスクが大きい。(代表取締役)
- * 高齢者の方はほとんど病気をもっているのに、宿泊をしている事業所は看護師を雇用していない。そのような危機管理ができていないところがほとんど。(管理責任者)

- * 近くに宿泊を実施しているデイサービスがあるが、夜の安全面や、職員の待遇面で問題がある、夜は職員と利用者がいっしょに寝ている、と聞いている。(取締役)
- * 家族にとっては介護負担軽減になり、安い金額で泊まれるサービスだが、実際の現場はどうなっているのか、不明な点が多い。(施設長)

その他の意見 [29件]

- * 地域ニーズに対応していくためには既存のサービスだけでは不十分であり、われわれ事業者も柔軟に対応していく必要性を考えている。(管理者)
- * 国の動向を注視して検討していく。(所長)
- * 「お泊まりデイ」と言われているが、メリット、デメリットがあるので、慎重に考えていきたい。(副センター長)
- * 家族支援としては意義がありニーズも多いので、事業として成り立つと思われる。しかし、事業所まかせばかりでいいと思えない。公的な役割が欠けている気がする。
(職員)

以 上